水素エネルギー関係のニュースから

（会長就任の挨拶に代えて）

会長　太　田　時　男

本会の生みの親，育ての親である赤松先生は１９８０年の第３回世界水素エネルギー会議の東京招致を期に，ご健康上の理由で，かねて，辞意をもらしておられた。このため，鋭意後任会長を物色中であったが，本会創立１０周年を明年に控え，記念行事などを身軽るに行えるようにとの幹事会の強いご意向で，不肖を省みずこの大役をお引受けした。しかし，これは名目のみで，実質的には従前通り，赤松名誉会長の下で働らきたいと思う。改めて，ご鞭撻をお願いいたしたい。

さて，あまりよく知られていないと思われる水素エネルギー関係のニュースにふれておきたい。

第一は6月２１日から１週間，北京の迎賓館で「水素エネルギー」のシンポジウムが開催されることで，これはアメリカー中国技術協定プロジェクトの一環であり，日本から私が講師として出席する。中国では包蔵水力が大きく，これを発電ー電解のシステムで水素に変え，泥炭や石炭に添加して重油にできないだろうかという目論見がある。

第二はサウジアラビアの科学計画で，今年からスタートし，7,５００億円をかけて，まず，キング・アブドラジッズ大学に付置の科学センターを作る。物質科学，水，太陽エネルギー，バイオテクノロジーなどのテーマ選択の中で，水素エネルギーも取り入れられ，私が，アメリカの「科学移転協会」を通じて指導に当っている。

わが国自身では，遺憾ながら，水素エネルギー開発はのび悩みの状態であるが，エネルギー源の豊かな国では，化学素材を兼ねた２次エネルギーとして，本格的な取組みが始まろうとしている。